

あわら市出身の児童文学者

永井鱗太郎を知っていますか

田島 伸浩

「刈安山を愛した『永井鱗太郎』の作品を愉しむ会」が、5月12日、あわら市中央公民館大ホールで開かれました。平成30年度第2回市民大
学講座で、「永井鱗太郎の作品を愉しむ会」実行委員会
の主催。100人を超える参加者でした。

永井鱗太郎についての私の知識は、郷土出身の
文学者として、あわら市金津図書館のロビーに大
きな肖像写真と経歴が掲げられ、また市内刈安山
の山頂に歌碑があること程度。ただ、金津中学校
の同級生の永井隆市さんが鱗太郎の甥であること
そして金津町議会議長を務めた彼がおじの歌碑建
立に尽力されたことはかなり以前から承知してい
ました。

実行委員長の牧田孝男さんから案内が届けられ
永井さんへの同級生のよしみ、そして、永井鱗太
郎の作詞に「今川節」が作曲していることに魅か
れて出向きました。

オープニングは、ピアノとフルートによる「ア
ヴェマリア」の演奏。つづいて、金津中学校報道
部生徒による短歌と詩の紹介。彼女たちはNHK
の朗読発表大会で優秀な成績を収めているとのこ
とで、滑舌のさわやかな朗読を披露されました。

永井鱗太郎が作詞した金津東小学校の校歌を、
同校の5・6年生児童30名余が元氣あふれる歌
声を会場いっぱい響かせました。



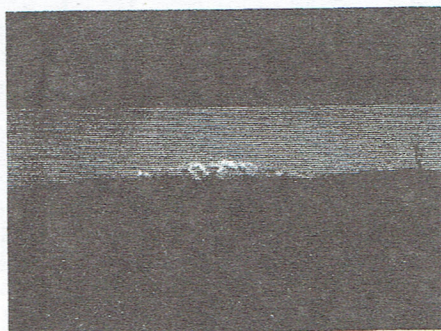
金津東小学校校歌
作詞 永井鱗太郎
作曲 小林三千三
昭和48年作



童話「やんすけとやんすけとやんすけと」の紹
介では、絵本がプロジェクトに映され、絵本語
り聞かせの大家たみ子さんが語られました。

刈安山自然公園

加越台地西端の標高547.7mの山。森林公
園としての整備がすすめられ、石川県の山
中温泉へ通じている。山頂には白山比咩神
社の分社があり、展望台、自然公園、キャ
ンプ場、トイレなどが整備されている。



西側からは白山連峰が望める

刈安コンサートでは、フルートとピアノの演奏が
三人の女性によって行われ、次いで、甥の永井法
男さんが永井鱗太郎との交流を話されました。
法男さんが東京の大学在学中におじを訪ねたとき
文学や芸術の話はまったくなく、一升瓶2本を食
卓に置き、さあ飲もうとすすめられた酒豪ぶりを
披露。また、鱗太郎の清貧であった暮らしぶり
も触れられました。
エンディング演奏は、今川節作曲の「花売り」
でしたが、ピアノとフルートの演奏で、残念なこ
とに歌唱はありませんでした。曲は日本情緒にあ
ふれたたおやかな心にしみとおるような旋律でし
た。
1時間半の「愉しむ会」は、演奏、朗読、合唱
など多彩で、日ごろの喧騒と隔絶された心休まる
ひとときでした。

永井鱗太郎 略年譜

明治40年 2月 福井県坂井郡金津町八日に生まれる。
 本名 永井善太郎
 大正11年 3月 金津尋常小学校卒業
 昭和 2年 3月 福井師範学校卒業。
 在学中から文学に親しみ、以後詩作に専念する。
 昭和 2年 4月 坂井郡伊井小学校に赴任。
 昭和 5年 4月 坂井郡高椋学校に赴任。
 昭和 8年 6月 児童文学者を目指して上京。
 東京市内の小学校に勤務するかたわら劇作家として活躍。
 昭和 48年 3月 金津東小学校の校歌を作詞。
 その発表に招かれる。
 昭和 59年 11月 芸術文化功労者として勲5等瑞宝章叙勲。
 昭和 59年 12月 短歌新聞社より歌集「かりやす」を出版。
 昭和 60年 10月 金津町刈安自然公園内に文学碑が建立される。
 昭和 60年 11月 5日 心不全のため逝去。享年78歳。



短歌集「かりやす」より

刈安の峠に立ちてひとまたぎ

越前越えて加賀を踏みたり

雲垂れて越前平野の果つところ

日本海はしづかに眠る

水さらさら刈安川のみなもとは

神代ながらに水澄みに澄む

荒川の岸辺に立てば一生を

鮒捕りて死にし父しおもほゆ

母の顔しらで育ちしわれなれど

天澄む時は天に坐す見ゆ

あの声はみみずが鳴くぞと教へたる

祖母のみ年を病みつつ越えぬ

たらの芽の 食べられることを

教へたる 弟死せり 南の島に

山寺の尼僧が時を告げし鐘も

たすきをかけて戦さに征きぬ

河骨の 黄色き花が ゆれ動く

竹田の川の面 なつかしきかも

ふるさとの 社の裏の貝塚は

今も昔のまま なるらんか

北潟の湖うみよりとれし公魚わかさぎを

食べ飽きるまで食べるたのしき

醤油のかび白く浮きしをとりのぞき

ご飯にかけし頃のなつかし

花 売 り

作詞 永井 鱗太郎
 作曲 今川 節

花を召せ 花を召せ

風に声ありあさばらけ

猫柳 黄水仙

涙の化ける花を召せ

今日も通るか教え子は家近く

師を憚りて声をおとせり

花を召せ 花を召せ

雪に声あり遥なり

雪に咲く 胸に咲く

月より清き花を召せ

※ 昭和6年、永井鱗太郎が丸岡町高椋学校に赴任中の作。時に永井鱗太郎24才、今川節22才と司会者は紹介されましたが、ふたりの接点や交友については触れられませんでした。

昭和6年、永井鱗太郎が丸岡町高椋学校に赴任中の作。時に永井鱗太郎24才、今川節22才と司会者は紹介されましたが、ふたりの接点や交友については触れられませんでした。